

泉区子ども会育成会 設立40年記録集

総務資料・広報誌から見た40年

設立30年から40年まで

泉区子ども会育成会の10年を語る P 2

設立40周年
記念講演会 P 6

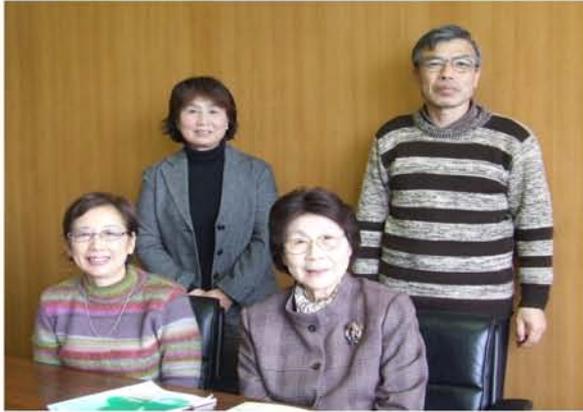
校区理事にアンケート
校区子ども会育成会の今！ P 8

40年の歴史を紹介
泉区子ども会育成会40年のあゆみ P 12

子ども会を支え続けた功績
表彰者一覧 P 22

設立30年から40年まで

泉区子ども会育成会の10年を語る



左下：塩川元会長 右下：山本元副会長 左上：千葉会長 右上：赤間副会長

10年間の歴史年表を見ながら ～山本元副会長・塩川元会長の談話から～

平成25年2月26日、「泉区子ども会育成会」の30年から40年までの10年間の記録するため座談会を開きました。談話内容を要約したものをご紹介します。

- ・座談会場所 泉区役所本庁舎5階 510会議室
- ・座談会出席者 山本元副会長・塩川元会長・千葉会長・赤間副会長・鹿野広報部長

こうして10年の歴史を見ると、夢中で一生懸命などやってきたように感じる。その年その年でいろいろな問題が起こった。

仙台市子ども会連合会の設立は、最初は3団体、仙台市子ども会育成会連合会（市子連）・仙台市泉区子ども会育成会（泉子連）・仙台市秋保町子ども会育成連合会（秋保子連）で組織された。3年前、仙台市宮城子ども会育成会連合会（宮城子連）が新加入し、現在の組織形態になった。初代会長は五十嵐会長が務め、各子連の相互の連絡協調を図ることとなった。

この10年の中で、一番大きな出来事は、ジュニアリーダー（以下、JLという。）のこと。JLの支援は、児童センターが中心になって行っていた。児童センターが『ひと・まち交流財団』の管轄になったのにもない、各校区と泉子連でJLを支援することとなった。その後、平成20年度から、各地域の市民センターと泉区中央市民センターにJLの支援が移管した。泉子連では、泉っ子キャンプなどの様々な行事を開催して、JLの参加を要請し子どもたちとのふれあいや活動の場を設けてきた。「JLになりたい！」という感想を話してくれる子どもたちも増えてきている。実際にJLと一緒に楽しい時間を過ごすことで、子どもたちにJLの魅力は伝わっていく。やはり声掛けは必要だと思う。JLには、子どもたちの遊びをリードしていく形の活動をしてもらえると良い。



H24年 インリーダー研修会にて子どもたちに
バルーンアートを教えるジュニアリーダー



H25年 泉っ子キャンプ ジュニアリーダーと
一緒に満面の笑みを浮かべる子どもたち！

当時は、シニアリーダーが20名ほど活動していて、人材が豊富だった。活動の時、育成者は安全を見守り、あとは、シニアリーダーに任せることができた。残念だが、今は活動休止となっている。



島貫元会長には、本当に色々なことを教わった。同じ活動をやるということは、悪いことではなくて良いことでもある。子どもたちは楽しいから毎年やりたいという。島貫元会長から「色々時代が変わってきてはいるが、変わってはいけない普遍的なものがある。」と言われた。例えば、竹とんぼ作りでいうと、毎年やっていて「1年生ではできなかった。」だけど、「4・5年になったら少しできているけど…ちゃんとできていない。」でも、「6年生になったらちゃんと上手にできた!」と、そういう達成感が見える活動ができるのも子ども会。



地区子ども会行事

地域型子ども会育成会は「自分の家の子どもも、孫みたいな子どもも全部地域の子もだ!」という気持ちでやっているから、本当に自慢して良いことだと思う。そして、今も皆さんが一生懸命やっている。

子どもたちの現状を話し合うところも、育成会だと思ふ。自分たちの校区の状況とか、泉子連に来ると勉強になる。校区交流会などで「うちの校区育成会はこのなんだ。」と見直しもできる。泉子連の役割は大きい。地元にしっかりとした長年の育成者がいて、また更に、新たな育成会の役員になった方々が泉子連の校区理事になって勉強し、泉子連や育成会の仕組みを理解して、そして、輪を広げて繋げてもらいたい。

重点目標はどの子ども会でもあると思うが、まずは、地域にあった活動をしてほしい。地域・地区にあった活動に良いも悪いもない。泉子連でも、校区や地区にあった活動をするように尊重している。泉子連は、今でも地域型子ども会活動が続いていて、ずっと変わっていない。育成会会長や校区理事が、毎年変わるところがあるが、できれば1年で変わらずに長く続けて欲しい。町内会や地域の諸団体と連携を取り、子ども会を見る目を広げ、子ども会を理解し支援してほしい。実際に、地域の色々な人達が子どもたちを見守ってくれている。これは大事なこと。育成会役員になると、そのことを知ることができる。



町内会夏まつり出店



校区交流会

『地域の中の子ども会』

**子どもたちの笑顔のために
子どもたちが考えた楽しい遊びを
地域の大人（育成者）が見守り
一緒に楽しみましょう！**

泉区子ども会育成会の40年を語る

平成15年1月17日、「泉区子ども会育成会」の30年間の記録するため、座談会を開き、その内容を要約し記録した『泉区子ども会育成会の30年を語る』に、平成25年2月、30年から40年までの10年間の活動内容を要約し追加したものです。

- ・平成15年1月17日座談会場所 島貫元会長宅（泉区松森）・出席者 島貫元会長・山本元副会長・小野会長・塩川副会長・石川総務部長
- ・平成25年2月26日座談会場所 泉区役所本庁舎510会議室・出席者 山本元副会長・塩川元会長・千葉会長・赤間副会長・鹿野広報部長

○ 子ども会育成会発足～現在の泉区子ども会育成会

(1) 子ども会育成会は、どのようにして設立されたか

- ① 昭和45年に宮城県が「子ども会親の会の育成推進要綱」を設置し、全国的な動きの中から当時の泉町にも子ども会育成会設置の呼びかけがあったのがきっかけとされている。

そもそも子ども会は、昔からあったと聞いている。江戸時代には、15才未満の子どもたちが「子ども組み」と称して神事・地域の行事等の奉仕活動をしていたと言われており、その後、明治・大正・昭和と移る中で昭和39年4月に、「全国子ども会連合会」が結成され、その翌年（昭和40年）には、「宮城県中央児童館」が設置された。

昭和43年、学校指導要綱が一部改正され「校外指導要綱」が外れたため、現在の地域子ども会の組織化になっていったとされている。その後の昭和45年、子ども会関係の管轄が厚生省から文部省に移り、社会教育団体として正式に設定されることになった。

- ② 昭和46年、泉区子ども会育成会結成準備委員会が設置されたが、その時すでに、黒松地区では「黒松連合子ども会育成会」が、早くから組織されていた。そのため、結成準備委員長に黒松の千葉英郎氏が抜擢され、泉の子ども会育成会の組織化が始まった。当時は、町・町教育委員会・学校など町内のありとあらゆる団体（152団体）が参加し、町をあげて子ども会育成会の組織化への取り組みを行っており、昭和46年7月「7校区」「80地区の子ども会」が参加し、その結成がされた。

(2) 現在の泉区子ども会育成会

泉区内29の小学校から推薦される理事と、役員・専門指導委員で構成されている。主な事業は、「子ども会育成会活動への支援」「校区間の交流や情報交換」「広報活動」。校区理事は、総務部・事業部・広報部のいずれかに所属し専門部会の活動を行い、研修会の開催やイベントの企画・運営、広報紙の発行などを行っている。

重点施策としての研修会は、子ども会や育成会活動に関わる育成者への研修のほかに、指導者としての認識に立った活動ができるようにと専門指導委員会主催の研修会を開催し、レクリエーションの指導、救急処置、安全教育等を盛り込んで実施している。

○ 仙台市子ども会連合会発足

平成15年「仙台市子ども会連合会設立準備会」を設置。平成17年4月、仙台市子ども会連合会設立。当初は仙台市子ども会育成会連合会（市子連）・仙台市泉区子ども会育成会（泉子連）・仙台市秋保町子ども会育成連合会（秋保子連）の3団体で組織された。平成21年4月、仙台市宮城子ども会育成会連合会（宮城子連）が加入し現在の組織形態になった。初代会長は五十嵐会長が務め、各子連の相互の連絡協調を図ることとなった。

○ 現在の「泉区民ふるさと祭り」の前身が「子ども祭り」

- (1) 昭和47年11月第1回「子ども祭り」が開催された。その後「子ども大会」・「泉区市民子ども祭り」・「子ども祭りとふるさと祭り」・「泉区民ふるさと祭り」名前を変えながら発展してきた。

子どもたちが自分で工夫し、自由に遊べる日として、第1回「子ども祭り」は、八乙女中学校で開催され、すべてが手作りのお祭りで、わら細工・竹馬・けん玉などで遊ぶ内容であった。しかし、その後、根白石中学校や将監小学校などで開催されたが、昭和50年に児童の会場までの移動の問題などから、「子ども祭り」については、各校区でそれぞれが実施することとなった。しかし、昭和54年に再び「子ども祭り」が提案され、昭和55年に「年1回子どもたちが自由に遊べる日を作る」を目的として「泉市民子ども祭り」が再び開催された。

会場を泉総合運動場として実施された「泉市民子ども祭り」には、約15,000人の参加があり、各校区の手作りみこし芝居・人形芝居・福岡地区の剣舞・紙芝居などの他、やぎ・羊・うさぎなど手でさわられる動物コーナーがあった。さらには、飾りたてた馬車に子どもたちを乗せるコーナーなど大盛況だった。

泉区子ども会育成会の40年を語る

当時、泉市や商工会でも独自に市民祭りを検討していたが、祭り参加者の企画に悩んでいたと言われている。その時、この「泉市民子ども祭り」を見た泉市長がびっくりし、泉市や商工会から子ども会育成会に相談があったとされている。そこで、昭和56年の市制施行10周年に合わせて、子ども祭りと市民祭りを共同で開催したところ、約20,000人の参加があり、大盛況となった。その後、翌年から「市民ふるさと祭り」として実施されるようになったものであり、泉市民ふるさと祭りの原点は八乙女中学校で開催された「子ども祭り」と言えよう。

(2) 祭りの開催場所

- ・昭和47年～昭和50年 八乙女中学校・根白石中学校・将監小学校で実施
- ・昭和51年～昭和54年 校区毎に実施
- ・昭和55年～昭和60年 泉総合運動場で実施
- ・昭和61年～昭和63年 泉市役所前で実施
- ・平成元年～平成4年 七北田川河川敷で実施
- ・平成5年～ 七北田公園内で実施

平成元年、はじめてとうろう作りを行い、七北田川に流したと記録されているが、川に流したとうろうを回収し、当時は七北田橋の下あたりで、胴長の長靴を履いて流れてくるとうろうを待ち構えて拾い上げるなど、胴長に水が入り、びしょびしょになりながら身を徹してお祭りだった。

○ 子ども会安全会から『全国子ども会安全共済会』へ

(1) 子ども会安全会

昭和48年5月子ども会安全会の共済制度が実施され、年額40円とされた。

宮城県子ども会が運用する見舞金制度と、賠償責任制度を併用した共済制度である。子ども会活動を行っている時に、いつ、だれが、どこで、どんな事故に会うか、また、他人に事故を負わせるか分からない。しかし、事故が怖いからといって、いろいろな事業を止めるわけにもいかない。そのような不安を少しでも解消し、万一の事故が起こった時に被害者にお見舞いをだして励ますことを目的として作られた制度であり、役員・指導者・一般会員全員の加入を基本とする。

(2) 平成24年度より『全国子ども会安全共済会』スタート

平成24年度より安全会制度が変更となり子ども会安全会は「全国子ども会安全共済会」に名称を替え、補償内容や会費も一部変更された。各年5月31日までに加入申込手続きをすると4月1日から保険適応を受けられるようになった。

安全共済会費が110円となり、10月1日以降の加入は100円となった。年会費には共済掛金の他に賠償責任保険料が含まれており、子ども会活動中に会員本人が負ったケガや病気の他に、誤って第三者にケガを負わせてしまったり、物を壊したりした時も補償を受けることができるようになった。

○ インリーダー研修会

- ① 昭和49年から昭和55年にかけて200人から400人以上の大規模なインリーダー研修が1泊で実施されてきた。多くは泉が岳青年の家で実施されてきたが、昭和52年・53年には、将監児童館等で5～6回に分け、それぞれ一泊で実施されるなど、長期間にわたる研修を実施してきている。当時は、児童館がインリーダー研修を担当し、子ども会育成会と一緒に実施するという役割だったため、役員と児童館の先生方が一生懸命であったことがわかる。

さらに、昭和52年に実施されたインリーダー研修は、春・秋の2回実施しており、春は将監児童館で参加者は254人、秋は青年の家で220人の参加者で開催されているが、200人以上の子どもたちを一同に研修を行うのは非常に大変であったようだ。そのためか翌年の昭和53年は、児童館や小学校に振り分け6回で実施し、1泊研修を取り止め日帰り研修となった。

その後、昭和56年からインリーダー研修会は、各校区がそれぞれ実施することになった。

- ② 平成24年度のインリーダー研修会では、1泊2日研修を実施する校区は無く1日や半日研修へと様式が替わっていった。4校区・2校区共催でインリーダー研修会を開催する校区があり、子どもたちが校区の壁を越え交流を深める機会となっている。

泉区子ども会育成会の40年を語る

○ ジュニアリーダーの支援

- ① ジュニアリーダーの要請と活動への支援としては、ジュニアリーダーの資質向上を目的として、初級研修会・技術研修会、活動研修会を実施していた。泉区内には児童館、児童センターを拠点に活動を行っていた12のジュニアリーダーサークルがあった。月1回各サークル代表者が集まる定例会があり、サークル間の情報交換や行事の企画立案を行っていた。(ジュニアリーダー連絡協議会、通称「ざわざわ森」)
- ② 児童センターが『ひと・まち交流財団』の管轄になったのにもない、各校区と泉子連でJLを支援することになった。その後、平成20年度の準備期間を経て、平成21年度から各地域の市民センターと泉区中央市民センターにJLの支援が移行した。
- ③ 現在、泉区には12のジュニアリーダーサークルが存在している。地域の市民センターや泉区中央市民センターを拠点とし活動している。インリーダー研修会などの子ども会活動や泉子連の様々な行事に参加し、子ども会活動を支援してくれる存在となっている。

○ 泉区シニアリーダー連絡協議会

ジュニアリーダーを卒業した学生や社会人によって構成された泉区シニアリーダー連絡協議会。平成14年は15人が登録し、ジュニアリーダーの指導者的存在であった。校区子ども会行事や市民センターの主催事業への参加など活動を行っていたが、現在は、活動を休止している。

○ 規約

- ① 昭和46年の発足当時から規約を作成し運営をしてきているが、昭和56年には、その規約を第1章から第4章に分割し、確定された規約として完成させた。また、県内でもいち早く「専門部設置要綱」や「表彰規定」の規約を作成した。当時は、他県から宮城県への育成会視察がよくあったようだが、県内でも確定された規約をもって運営しているところは少なく、視察受け入れに困った県の教育委員会は、泉の育成会へその都度、視察受け入れを要請して来るといった状況であった。また、全国への研修にでかけても、泉ほどの大規模な育成会組織は少なく、他都市から学ぶよりも、教えることの方が多かったようだ。
現在は、仙台市子ども会連合会組織の一子連となったため、泉子連の名前は出なくなった。

○ 広報紙「いずみ」発行

- ① 広報紙が初めて発行されることになったのは昭和54年からである。それまでは、子ども会育成会の活動報告は、「児童館だより」等で知らされていた。昭和54年にジュニアリーダーに関する行政のあり方について教育委員会と児童館等の話し合いが行われたが、このとき広報のあり方なども話し合われたと言われている。話し合いの結果、これまで児童館が広報をしていた子ども会育成会活動については、子ども会育成会が独自に発行していくことになったのが始まりである。
- ② 平成13年、広報紙「いずみ」の配布方法を全戸配布から、小中学校実家庭配布、町内会回覧方式に変わる。現在、実家庭配布は小学校のみ行っている。

○ 泉区子ども会育成会ホームページ開設

平成20年、泉子連や各校区の活動報告、開催行事予定を紹介し、さまざまな情報をできるだけ多くの会員の皆様に伝達することを目的として、ホームページを開設した。随時新しい情報を発信できるよう、ホームページの継続的な更新を行っている。

○ 泉中央駅第3の泉に水神の水

平成4年の地下鉄開業を記念して、子どもたちが泉ヶ岳の水神の水をリレーで運び、泉中央第3の泉に注ぎこまれた。水神の水を入れる器は、八乙女小学校陶芸愛好会で作成されたものを使用し運んだ。福岡小学校で出発式が行われ、白バイとパトカーの先導に子どもたちが、福岡・根白石・実沢・野村・寺岡・高森・高森東・将監西・将監中央・将監・七北田の各小学校区を聖水リレーし、第3の泉に泉ヶ岳の聖水を注ぎこみ、地下鉄開業記念を盛り上げた。

40周年記念講演会

平成24年6月6日(水) 根白石市民センター ホール



テーマ
「広げよう

繋げよう 伝えよう！
子どものちから・子ども会のちから・子育ての喜び」

講師 嶺岸 篤 氏

(元宮城県子ども会育成連合会事務局長)

東日本大震災の際、石巻市立河南東中学校校長として緊急避難所の運営をなさっていた嶺岸氏。「今回が震災後大人を前にしての初めての講演会。(避難所運営を経て)自分の考えが固まった。子どものちから・子ども会のちから・子育ての喜びについてお話ししたい」と力説されました。

子どものちから



遊びを子どもたちに伝えるということはものすごく大事。
子どもに遊びを作る空間と遊びの仲間を作ってほしい。子どもが持っている力を広げていこう！



去年から強く感じているのは“子どものちから”です。
震災の避難所経営をしていたのですが、子どもたちの力は、安心感を与えるだけではなく、未来をどうするかにもかかわってくる。未来をどうするかの話し合いの中で、将来引越そうと思った時に、子どもがいる地域とそうでない地域とでは、未来に対する考え方が違うと感じた。将来この地区に住宅を作ろう、公園を作ろう、緑を作ろう、子どもたちの遊び場を作ろう、子どもが通っても危なくないようにしよう、自転車が置ける場所にしよう、野球もできるといいねなど、未来に向かっての街づくりがスタートしていきます。スーパーがあるといいねという話ではない。自分たちの未来をどう作っていくかは、まさに、子どもの存在

だたとひひしと感じた。そして、次の時代、しなやかに生きる力は、母と子どもにあるのだなと思っていました。お母さんが立ち直るパワーをひひしと感じ、それに負けまいと思って1年半を過ごしていました。

子どもたちに遊びを作ってほしい。テレビゲームやテレビに、遊びが負けてはならないと思う。遊びが面白いことを子どもたちに伝えていかないとこの国がどうなるのかと心配をしています。遊びを子どもたちに伝えるということはものすごく大事で、その遊びを作る空間を作っていくということはとても大事だと思います。児童館があります。児童館に行くと子どもたちがいっぱい遊んでいる。児童館に行ったら何々しなさいと命令されるわけではない。積み木で遊びたかったら積み木で遊ぶ、人形で遊びたかったら人形で遊ぶ。だから、泉区の子どもたちは幸せだなあ、遊ぶ空間が補償されている。

ぜひ、子どもたちに、遊びを作る空間と遊びの仲間を作り、楽しい遊びを伝えて子どもが持っている力を広げていただきたい。

子ども会のちから

子ども会はどんな活動をするのか、まず、ベースは、はじめから楽しくて触れあう活動をしましょう。今年の活動を子どもたちが楽しい！来年もやりたい！と言ったらやってもいい。でも、ずっとやっているのはなあ。毎年同じことをやっていたら飽きますよね。飽きたら何をするかというと、子どもに聞けばいい。状況下の中でやっていきましょうよ。そのベースは子どもの遊びの中に入っている。何も豪華絢爛にやらなくても、子どもたちは十分に楽しんでるので、皆さんも、皆さんと一緒に楽しめるようにしていただきたい。



皆さんのお子さんも間違いなく、あと20年25年後には親となって自分の子育てをしなければならない。自分の子どもたちに自分の子育て空間をきちんと作っていくことが、私たち子ども会育成会を繋いでいく最大の理由なんです。子ども会育成会もやれる範疇でしかやれない。背伸びしてやることもない。ある程度の負担はいいと思いますが、無理をしてやれば次の年からもっと負担になっていく。子どもと同時に楽しんでほしい。子ども会育成会で活動する時に、年間計画を立てて、プログラムを決めていく訳ですが、子どもたちがよりよくやればいい。もしやれなければ地区の町内会さんに協力をしてもらって、老人クラブにお手伝いしてもらって、そういう形で協力してもらいながら子ども会活動がなされていけばいいと思っています。



子どもたちには、価値観を揺さぶるような行事や人間関係が必要。子どもの価値観はどんな時に変わるのかというと、涙するくらい嬉しかったり涙するくらい喜んだりした時。もっともっと、子どもたちに喜びや楽しさを与えたい。それができるのが子ども会。子どもたちに豊かな条件を与えていきましょう。

子育ての喜び



子どもたちが何を学ぶか、子どもたちに何を体験させるか、何を経験させるか、失敗ほど素晴らしい経験になるものはない。子どもたちができるかできないか、やってみた時に、皆さんも体験の中で学んでほしい。

もっと人生を豊かに楽しんでいく子どもたちを作りたいと思って、私達子ども会は進んでいる。できる子だけで何かをしていく社会を、私たち子ども会育成会は作ろうとしているわけではない。みんなで一緒にやるというのは～お互いの今の姿を、お互いに認め合う～今のあなたの状態でやりましょうよ！

皆さんの思っている大好きな遊びを子どもたちと一緒にやっていたら、子ども会は豊かなものになる。自分たちの子どもたちの豊かな未来をお互いに作っていきましょう！

三人寄れば文殊の知恵

なぜ役員さん達は3人を選ぶか。会長と副会長2人。「三人寄れば文殊の知恵」。何かを決定する時に、自信がない時は3人だと自信に繋がる。2人でやってる時は不安なんだけど、3人は自信なんです。すごくいいの。だから、会長さんになった時に仲間2人は必ず連れてくる。2人だと「2人で決めたんでしょ」になる。でも3人だと「みんな」になる。「みんなで決めたんだから！」（会場から笑い）役員会する時もだれも来なくても、3人集まって「みんなで決めました！」（会場から笑い）テクニクワン！

【参加者の声】

楽しいお話の中に『何が大切なことか』を、自分自身で考えることが出来る良いきっかけになりました。「三人寄れば文殊の知恵」確かに、その通りです。これからの子ども会活動に取り入れたいと思う事例がたくさんあり、とても勉強になりました。

嶺岸氏は、未来を担う子どもたちの健全な育成にとって大切なことをご講話くださいました。

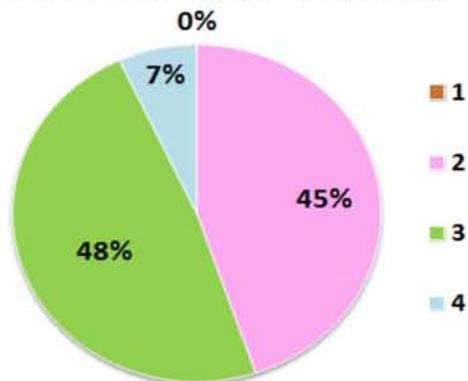
また、ゲーム指導では簡単なゲームを通じて『同時呼吸・同時動作』の意味を学ぶことができ、楽しく学びの多い有意義な講演会となりました。

校区子ども会育成会の今！

泉区子ども会育成会は、泉区内29の小学校育成会から推薦される校区理事と会長を始めとする役員、専門指導委員で構成されております。校区理事は、総務部・事業部・広報部の3部会を組織し泉区子ども会育成会の事業を行っています。

設立40周年を記念し、泉区内29校区の子ども会育成会の皆さんにご協力いただき、“校区子ども会活動・インリーダー研修会について”のアンケートを実施しました。アンケートの回答をもとに、校区理事や小学校区育成会活動の現状をご紹介します。（平成24年7月実施）

Q1. 泉区子ども会育成会校区理事の兼務状況



校区子ども会活動について

Q1. 泉区子ども会育成会理事の皆さんの兼務状況は、次のどれに当てはまりますか？

- | | |
|-----------------------|-----|
| ①泉区子ども会育成会の役員のみ | 0名 |
| ②泉区と校区子ども会育成会の役員 | 13名 |
| ③泉区と校区と地区単位子ども会育成会の役員 | 14名 |
| ④無回答 | 2名 |

殆どの方々が”二役・三役”といったように、校区理事と校区子ども会育成会や単位子ども会育成会の役員を兼務していることが分かりました。

Q2. 校区として受け継がれている特色ある活動はありますか？



Q2. 校区として受け継がれている特色ある活動はありますか？

- ①ある 23名

校区として受け継がれている特色ある活動とはどんな活動ですか？

校区名	活動内容
実沢小	4校区合同インリーダー研修会
寺岡小	①寺岡・紫山夏祭り ②七夕飾りの作成
高森小	①10月：グランドゴルフ大会 ②1月：綱引き大会
野村小	①夏祭り ②インリーダー研修会 ③ふるさと祭り ④資源回収
将監小	①各地区子ども会とのスポーツ大会 ②インリーダー研修会（4・5年生向け） ③育成会研修会 ④児童推進：将監子ども楽校（田植え、稲刈り、キャンプ収穫祭、稲わら工作、凧作り） ⑤学区体振、将監小学校区民夏祭り、スポーツフェスティバル、校区親子スポーツ大会
泉ヶ丘小	①学区民大運動会に校区育成会が共催として参加している。 ②7月夏祭り、育成会は子どもみこし・子ども太鼓・夜店出店など毎年恒例行事となっている。
七北田小	①インリーダー研修会 ②まなコミ（キャンプだホイ！など） ③ふるさと祭り ④花植えなど
松森小	ふれあい祭り
鶴が丘小	ニュースポーツ教室
南光台小	夏祭り。お神輿作りから旗作りへと変わったが、育成会と子ども会で遊びコーナーを開催。
黒松小	①7月：交通安全教室 ②8月：黒松夏祭り

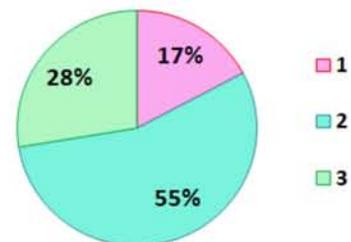
校 区 名	活 動 内 容
長命ヶ丘小	町内会の方々と協力して夏祭りを盛大に行っています。
松 陵 小	スポーツ大会（ドッジボール等）
高森東小	夏祭り
松陵西小	①松陵小との2校区合同インリーダー研修会 ②2校区合同主催事業（ウォークラリー、デイキャンプ）
虹の丘小	①虹の丘夏祭りのおみこし（単位子ども会への表彰式） ②虹小バザーわたあめ作り出店
加 茂 小	七夕飾り（各地区に竹飾りを作成。8/6～8飾ります。）
桂 小	①桂DE祭り ②ウォークラリー ③交通安全協会 ④運動会
市名坂小	中学校区を見越して、2校区合同でインリーダー研修会を開催しています。
南中山小	①夏祭りで単位子ども会で灯ろう、七夕飾りを作る。 ②南中山市民センターまつりの参加 ③児童センターまつりの参加 ④みやぎ夢灯花⇒大阪池田小学校での悲しい事件をきっかけにした行事。校庭にその年の分（今年は2012個）のろうそくを灯す。平和を願うイベント。
南光台東小	①神社の祭礼 ②料理教室（食育） ③インリーダー研修会 ④読み聞かせ ⑤環境施設見学 ⑥育成会通信発行
将監西小	地域の方たちとの学区民スポーツ大会、コミュニティーセンター祭りなど
福 岡 小	夏祭り

Q3. 子ども会育成会の活動は、町内会や地域の方々によく理解されていますか？

- ①とてもよく理解されている 5名
- ②まあまあよく理解されている 16名
- ③あまりよく理解されていない 8名

よく理解されているという回答が72%という結果となりました。今後も町内会や地域の方々に、子どもたちの健全な育成を支援する校区子ども会育成会活動をよりよく理解して頂けるようにしたいものです。

Q3. 子ども会育成会の活動は、町内会や地域の方々によく理解されていますか？



Q4. 泉区子ども会育成会の活動を、校区子ども会育成会活動にどのように役立っていますか？

子どもたちの活動に携わる際、泉区子ども会育成会の研修や講習のお話は、改めて気付かされることもあり、すごく役に立っております。

校区の理事会で報告し、情報の共有を図っています。育成会通信に掲載し活動の参考にしています。

単位子ども会活動をよりよく運営するため、各地区長さんにも研修会に参加してもらっています。

役立てようと思っっているのですが、なかなか役立てられていないというのが現状です。



- ・他校区との交流
- ・情報の共有
- ・ジュニアリーダーの活用法

インリーダー研修会について

Q1. インリーダー研修会の開催日程は、次のどれに当てはまりますか？

①半日（午前 or 午後）	7%
②半日（午前）	43%
③半日（午後）	3%
④1日（昼食を挟んで午後まで）	38%
⑤1泊2日	0%
⑥未定	7%

Q2. インリーダー研修会の開催場所は、次のどれに当てはまりますか？（複数回答有）

①小学校	21%
②市民センター	40%
③児童センター・児童館	0%
④その他 …コミュニティセンター	21%
…泉岳少年自然の家	12%
⑤未定	6%

Q3. インリーダー研修会の開催状況は、次のどれに当てはまりますか？

①校区主催	62%
②複数校区で共催	38%

Q4. インリーダー研修会では外部講師を要請していますか？

①はい	97%
②いいえ	3%

Q5. インリーダー研修会の研修内容に『KYT、～危険予知トレーニング～』を取り入れていますか？

①はい	59%
②いいえ	28%
③無回答	7%
④取り入れる予定	3%
⑤未定	3%

①『はい』と答えた方に質問！ 外部講師は次のどれに当てはまりますか？（複数回答有）

①嘱託社会教育主事	44%
②ジュニアリーダー	39%
③専門指導委員会	9%
④その他 小学校の先生	2%
⑤未定	4%
⑥無回答	2%

インリーダー研修会について、アンケートを実施したところ、半日で行う校区が全体の半数を占め、複数の校区と協力してインリーダー研修会を行う校区が38%もあることが分かりました。また、多くの校区が市民センターなどの地域の施設を利用し、嘱託社会教育主事の先生方やジュニアリーダーを講師にお招きし、KYTを取り入れた研修会を行っていることも分かりました。

校区育成会活動やインリーダー研修会についてのアンケート結果をご紹介します。いかがでしたでしょうか？

少子化による団体数や加入者数の減少、役員の兼務など多くの課題を抱えている子ども会育成会。今回のアンケート結果から、校区理事の皆さんが抱える悩みや育成会活動の現状を把握することにより、今後の子ども会活動や育成会活動をより活発にすることができるのではないのでしょうか。

昭和46年に設立された泉区子ども会育成会。小学校区子ども会育成会との連絡調整や、地域の意見・情報交換を行い、子ども会の育成と発展を図ることを目的として40年間活動をしてまいりました。

これからも泉区子ども会育成会は、子どもたちの健全な育成のために、子ども会活動を支援してまいります。

アンケートにご協力くださいました皆様、ありがとうございました。



Q5. 泉区子ども会育成会の活動、校区子ども会育成会活動への感想を一言！

ここが良かった！

校区外の情報を得られることがありがたい。
様々な人との出会い・ふれあい。

理事になり、講演会や研修会に参加できて、
KYTは特に重要な内容だと思います。
子ども会役員の方は（そうでない方も）みんな
参加できると良いと思いました。

活動を通して、いろいろ勉強になることがあ
った点が良かったです。

子どもたちの参加する行事が前年度と比べた
時に、多い時良かったと思う。
親の関心も人数も多い時。

インリーダー研修会で、5・6年生が上級生と
しての意識を持つようになること。

参加した保護者の方から大変だけどとても良
い活動でしたと言っていた時。子ども
たちが楽しかったと言って帰って行く時に得
られる達成感と人との繋がりができること。

行事を通して子どもたちの笑顔や成長がみら
れる所。保護者同士で交流を持つことで意見
交換できたりする。

私が小学校の時（旧泉市）にあった様々な行
事の仕組みが分かったこと。子どもの記憶に
残る行事は育成会が作ると知ったこと。

忙しいながらも研修会や講演会に参加し、改め
て子どもへの関わり方を考える良い機会にな
ったと思う。

泉区子ども会育成会の活動では、楽しい講話
が聞けたり、他校区の情報を色々聞いて知る
ことが出来る事です。
校区子ども会育成会の活動では、地域を良く
知ることが出来ることです。



ここが大変！

育成会役員は、泉区・校区・地区単位子ども会
の役員を兼務しているため忙しい。

一年ごとに役員が変わるので、理解をするのが
大変…終わる頃に流れが分かるのでしょうが…。

毎年役員が変わるので「育成会」の活動内容や
育成会の役割を把握するのに時間がかかる。
研修会等では初歩的な知識を教えて頂けると校
区に帰ってからより活発な活動に繋がると思
います。

泉区については研修会や講演会等回数も多く、
個の負担は大きい。校区については、町内会や
子ども会（特に町内会）との連携が大変。

実家庭数が少ないので、協力が必要。

世帯数が少なく役員の兼務が多い。一人一人の
負担が多い。

子どもたちの参加が少ない。

家庭があり、学校の役員・子ども会の役員の兼
務に加え、仕事をされている方も多く、時間
の取り方、スケジュール管理が大変。

様々な研修会を行われる中、出席する方（協力
性の高い方が参加増）と、そうでない方との格
差がある。

1年ごとの役員なので思うように引き継ぎや内
容が次年度へつながっていないような気がする。

各行事への参加を募ってもお仕事をされている
方がほとんどで、また、単位子ども会でも行事
等で忙しいので なかなか参加される方が集め
られない。



総務資料・広報紙から見た泉区子ども会育成会の40年

	出 来 事	内 容																					
昭和45年3月	・宮城県が子ども会親の会の育成推進要項設置																						
昭和46年7月6日 校区数 8校区 児童数 3,414人 予算額 246,000円 〔 予算内訳 〕 負担金 16,000円 町補助 200,000円 その他 30,000円	・泉町子ども会育成会が七北田公民館で開催される。 ・各地区子ども会育成会が結成される	・結成準備委員長 千葉栄郎（黒松連合子ども会育成会会長） （総務資料から） 目的：泉町の子ども会相互の連絡調整を図り地域の意見、情報を交換して子ども会の推進を図ることを目的とする 組織：町・町教育委員会・学校・公民館・児童館・幼稚園・保育所・青少年協議会・社会福祉協議会・民生委員・社会教育委員会・町内会・婦人会・青年団・PTA・老人クラブ・体育協会・交通整備隊・地区子ども会育成会・子ども会指導者協議会 ・子ども会育成会を結成した校区 ・黒松・根白石・実沢・福岡・七北田・野村・将監・南光台の各小学校区																					
昭和46年11月1日	泉市となる																						
昭和47年5月26日 校区数 8校区 児童数 4,137人 予算額 289,738円	第1回 泉市子ども会育成会総会 ・第1回「子ども祭り」が八乙女中で開催される	・八乙女中学校で開催された「子ども祭り」がのちの「ふるさと祭り」へと発展していくことになる （昭和47年11月）																					
昭和47年6月	・宮城県子ども会育成会連合会が結成される																						
昭和48年5月1日	県子ども会安全会規約実施	年額40円とする																					
昭和48年6月6日 校区数 8校区 児童数 4,908人 予算額 369,897円	第2回 泉市子ども会育成会総会 ・年度目標を設定する ・規約改正（組織）を行う	(1)子ども会育成会の組織強化を図る (2)子ども会活動の充実を図る (3)子ども会の安全及び遊び場など環境整備を図る ・団体機関の代表をもって組織することになる（152団体） <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-top: 5px;"> <thead> <tr> <th style="width: 33.33%; text-align: center;">会 員</th> <th style="width: 33.33%; text-align: center;">会 員</th> <th style="width: 33.33%; text-align: center;">会 員</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>泉市長</td> <td>各公民館長</td> <td>各地区町内会長</td> </tr> <tr> <td>泉市教育長</td> <td>各児童館長</td> <td>各婦人会長</td> </tr> <tr> <td>社会福祉事務所長</td> <td>各幼稚園長</td> <td>青年団長・事務長</td> </tr> <tr> <td>各小学校長</td> <td>各保育園長</td> <td>各PTA会長</td> </tr> <tr> <td>各中学校長</td> <td>各地区社会教育長</td> <td>各長生会長</td> </tr> <tr> <td>各子供会育成会長</td> <td>その他</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	会 員	会 員	会 員	泉市長	各公民館長	各地区町内会長	泉市教育長	各児童館長	各婦人会長	社会福祉事務所長	各幼稚園長	青年団長・事務長	各小学校長	各保育園長	各PTA会長	各中学校長	各地区社会教育長	各長生会長	各子供会育成会長	その他	
会 員	会 員	会 員																					
泉市長	各公民館長	各地区町内会長																					
泉市教育長	各児童館長	各婦人会長																					
社会福祉事務所長	各幼稚園長	青年団長・事務長																					
各小学校長	各保育園長	各PTA会長																					
各中学校長	各地区社会教育長	各長生会長																					
各子供会育成会長	その他																						

	出 来 事	内 容																
昭和49年6月7日 校区数 9 校区 児童数 6,010 人 予算額 436,573 円	第3回 泉市子ども育成会総会 ・参加団体 155 団体になる	・向陽台校区結成 ・総会資料は昭和49年度分までは、手書き（鉄筆）のものであるが、これ以降はタイプライターを使用したものとなる																
昭和50年6月9日 校区数 10 校区 児童数 7,366 人 予算額 488,281 円	第4回 泉市子ども育成会総会 ・泉市子ども育成会会員研修会 82 名 ・ジュニアリーダー研修会（青年の家 1泊） 58 名 ・県子ども会大会 40 名 ・第2回泉市子ども会大会（根白石中） 350 名 ・インリーダー研修会（2月 青年の家 一泊） 204 名	・将監西校区結成 ・総会資料から出来事の一部を抜粋 根白石中学校を会場に 350 名の子どもたちが集まり「子ども会大会」を開催している また、インリーダー研修には 204 名が1泊で研修に参加している																
昭和51年6月5日 校区数 11 校区 児童数 8,244 人 予算額 482,807 円	第5回 泉市子ども育成会総会 ・泉市子ども育成会会員研修会 81 名 ・ジュニアリーダー研修会（青年の家 1泊） 30 名 ・泉市子ども会大会（将監小） 300 名	・南光台東校区結成 ・子ども祭りの実施は、この年から各校区が独自に実施することとされた																
昭和52年6月12日 校区数 12 校区 児童数 9,105 人 予算額 531,251 円	第6回 泉市子ども育成会総会 ・参加団体 196 団体となる ・インリーダー研修会（将監児童館 一泊） 254 名 ・インリーダー研修会（青年の家 一泊） 220 名	・高森校区結成 ・インリーダー研修会が将監児童館にて1泊で行われた ※人数が多いため、5回に分けて実施されている また、期間も7月22日～8月6日と長期にわたり実施 ・青年の家利用のインリーダー研修は、一度で実施 3月25日～27日																
昭和53年5月27日 校区数 13 校区 児童数 10,130 人 予算額 593,632 円	第7回 泉市子ども育成会総会 ・インリーダー研修を6回に分け会場別に実施することになる ・児童数が1万人を超える	・松森校区結成 ・インリーダー研修会場 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>会 場</th> <th>人 数</th> <th>会 場</th> <th>人 数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>根白石児童館</td> <td>56 人</td> <td>向陽台児童館</td> <td>70 人</td> </tr> <tr> <td>七北田児童館</td> <td>66 人</td> <td>南光台小学校</td> <td>84 人</td> </tr> <tr> <td>黒松児童館</td> <td>70 人</td> <td>将監児童館</td> <td>56 人</td> </tr> </tbody> </table> ※1泊の研修は取り止め	会 場	人 数	会 場	人 数	根白石児童館	56 人	向陽台児童館	70 人	七北田児童館	66 人	南光台小学校	84 人	黒松児童館	70 人	将監児童館	56 人
会 場	人 数	会 場	人 数															
根白石児童館	56 人	向陽台児童館	70 人															
七北田児童館	66 人	南光台小学校	84 人															
黒松児童館	70 人	将監児童館	56 人															

	出 来 事	内 容																		
昭和54年5月26日 校区数 17 校区 児童数 11,360 人 予算額 1,024,000 円	第8回 泉市子ども会育成会総会 ・育成会助成金基準の変更を行う ・インリーダー研修を7回に分けて行う ・予算が100万円を超える ・安全会費が値上げされる ・組織の変更が行われる	・将監中央・泉ヶ丘・長命ヶ丘・加茂校区結成 ・1校区あたり「10,000円+5月1日の児童数×20円」を1校区あたり「10,000円+5月1日の児童数×30円」に変更 ・会場を将監児童館とし、420名を7回に分けた日程で、1泊で実施 ・市からの補助金が「888,000円」と4倍になった ・安全会費が40円から70円に変更された ・各団体の代表者にて構成することとなった <table border="1" data-bbox="820 465 1506 701"> <thead> <tr> <th>団 体</th> <th>団 体</th> <th>団 体</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>小学校</td> <td>青少年指導室</td> <td>体育協会</td> </tr> <tr> <td>中学校</td> <td>社会福祉協議会</td> <td>リレーション協会</td> </tr> <tr> <td>公民館</td> <td>老連会</td> <td></td> </tr> <tr> <td>児童館</td> <td>婦連会</td> <td></td> </tr> <tr> <td>児童センター</td> <td>市P連</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> ・ジュニアリーダーに関する行政側のありかたについて検討（窓口を教育委員会社会教育課が担当することになる） ・ジュニアリーダー行事取りまとめを児童館とした ・育成会でも単独で活動報告のため、広報紙を作成することになる <div data-bbox="991 891 1378 1025" style="border: 1px solid blue; border-radius: 15px; padding: 5px; margin-top: 10px;"> この年「子ども祭り」が提案されたが実施しなかった </div> 	団 体	団 体	団 体	小学校	青少年指導室	体育協会	中学校	社会福祉協議会	リレーション協会	公民館	老連会		児童館	婦連会		児童センター	市P連	
団 体	団 体	団 体																		
小学校	青少年指導室	体育協会																		
中学校	社会福祉協議会	リレーション協会																		
公民館	老連会																			
児童館	婦連会																			
児童センター	市P連																			

昭和55年5月17日 校区数 17 校区 児童数 12,170 人 予算額 1,079,000 円 <div data-bbox="164 1283 376 1473" style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-top: 20px;">  </div>	第9回 泉市子ども会育成会総会 ・「泉市子ども会育成会のシンボルマーク」作成 ・泉市民子ども祭りが提案される 15,000名が参加 ・インリーダー研修会1泊で行う	<div data-bbox="842 1077 927 1167" style="float: left; margin-right: 10px;">  </div> <div data-bbox="967 1077 1506 1267" style="border: 1px solid blue; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-bottom: 10px;"> ・この年はじめて総会の会場が移され、市役所の大会議室を使用するようになった ・手作りの総会資料は、この年までで、以後業者の印刷となった </div> ・シンボルマーク 親と子、地域の人々が手をとりあって青少年の健全育成に努める姿を表す ・子ども祭り内容 目的：年1回子どもたちが自由に遊べる日をつくる 会場：泉総合運動場 内容：子どもみこしを各校区が作る <ul style="list-style-type: none"> ・水鉄砲、紙鉄砲、たこ作り、竹とんぼ、わら細工、竹馬、たがまわし、けん玉、ヨーヨー ・動物をおく（やぎ、うさぎ、羊） ・人形芝居、紙芝居、福岡地区剣舞等 ・紙風船、金魚すくい、食べ物コーナーをおく ・インリーダー研修会は、青年の家にて1泊で行う （参加者450名）
--	---	--



	出 来 事	内 容																																				
昭和56年4月18日 校区数 18 校区 児童数 13,082 人 予算額 3,110,000 円	第10回 泉市子ども会育成会総会 ・子ども祭りとは市民祭りを共同で開催 ・規約改正を行う	・八乙女校区結成 ・総会資料の表紙にシンボルマークが光る ・市制10周年を記念し、「ふるさと祭り」としての開催となった (参加者 20,000 名) ・規約を第1章から第4章に分割 (4月18日) ・泉市子ども会育成会専門部設置要綱を設置 (4月18日) ・泉市子ども会育成会表彰規定を設置 (4月18日)  インリーダー研修が各校区で実施されるようになる																																				
昭和57年4月17日 校区数 19 校区 児童数 13,903 人 予算額 3,160,000 円	第11回 泉市子ども会育成会総会 ・市民ふるさと祭りとして実施する ・2団体と7名の表彰をはじめて行う	・鶴が丘校区結成 ・子ども会育成会と市民まつりの共同開催から「市民ふるさと祭り」として市が主体となって開催するようになる																																				
昭和58年4月28日 校区数 19 校区 児童数 14,396 人 予算額 3,570,000 円	第12回 泉市子ども会育成会総会 ・市民ふるさと祭りとみやぎ子ども祭りを同時開催 ・広報紙「いずみ」第1号発行	・10月2日、市民ふるさと祭りとみやぎ子ども祭りを同時開催し、祭りを盛り上げた ・広報紙の各校区取り組み内容抜粋 <table border="1" data-bbox="820 1010 1501 1848"> <thead> <tr> <th>校 区</th> <th>活 動 内 容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>福 岡</td> <td>冬休み地元神社の参道清掃を行う</td> </tr> <tr> <td>根 白 石</td> <td>校区ふるさと祭りを開催</td> </tr> <tr> <td>実 沢</td> <td>運動会を開催</td> </tr> <tr> <td>高 森</td> <td>親子競技大会・盆踊り太鼓を行う</td> </tr> <tr> <td>野 村</td> <td>移動児童館に参加</td> </tr> <tr> <td>将 監 西</td> <td>地区対抗スポーツ大会を開催</td> </tr> <tr> <td>将監中央</td> <td>会報「やまびこ」を発行</td> </tr> <tr> <td>将 監</td> <td>インリーダー研修に5年生全員が参加</td> </tr> <tr> <td>泉ヶ丘</td> <td>5班がそれぞれ別々の行事を行う</td> </tr> <tr> <td>七北田</td> <td>「愛情と訓練」を旗印に活動強化を図った</td> </tr> <tr> <td>向陽台</td> <td>映写会を実施 (予算20万を計上)</td> </tr> <tr> <td>松 森</td> <td>松森と鶴が丘に分離する</td> </tr> <tr> <td>南光台東</td> <td>八滝不動神社祭りに手作りみこしで参加</td> </tr> <tr> <td>南 光 台</td> <td>広報紙を年6回発行する</td> </tr> <tr> <td>黒 松</td> <td>子ども祭りを開催</td> </tr> <tr> <td>長命ヶ丘</td> <td>ふるさと祭り・親子ハイキング・運動会を実施</td> </tr> <tr> <td>鶴が丘</td> <td>集会場の草取り、ソフトボール大会、芋煮会、野球大会、バレーボール大会、花火大会、七夕まつり、座談会、肝試し、キャンプファイヤー、スケート大会等を実施</td> </tr> </tbody> </table>  広報紙の表紙は、子どもみこしが飾る	校 区	活 動 内 容	福 岡	冬休み地元神社の参道清掃を行う	根 白 石	校区ふるさと祭りを開催	実 沢	運動会を開催	高 森	親子競技大会・盆踊り太鼓を行う	野 村	移動児童館に参加	将 監 西	地区対抗スポーツ大会を開催	将監中央	会報「やまびこ」を発行	将 監	インリーダー研修に5年生全員が参加	泉ヶ丘	5班がそれぞれ別々の行事を行う	七北田	「愛情と訓練」を旗印に活動強化を図った	向陽台	映写会を実施 (予算20万を計上)	松 森	松森と鶴が丘に分離する	南光台東	八滝不動神社祭りに手作りみこしで参加	南 光 台	広報紙を年6回発行する	黒 松	子ども祭りを開催	長命ヶ丘	ふるさと祭り・親子ハイキング・運動会を実施	鶴が丘	集会場の草取り、ソフトボール大会、芋煮会、野球大会、バレーボール大会、花火大会、七夕まつり、座談会、肝試し、キャンプファイヤー、スケート大会等を実施
校 区	活 動 内 容																																					
福 岡	冬休み地元神社の参道清掃を行う																																					
根 白 石	校区ふるさと祭りを開催																																					
実 沢	運動会を開催																																					
高 森	親子競技大会・盆踊り太鼓を行う																																					
野 村	移動児童館に参加																																					
将 監 西	地区対抗スポーツ大会を開催																																					
将監中央	会報「やまびこ」を発行																																					
将 監	インリーダー研修に5年生全員が参加																																					
泉ヶ丘	5班がそれぞれ別々の行事を行う																																					
七北田	「愛情と訓練」を旗印に活動強化を図った																																					
向陽台	映写会を実施 (予算20万を計上)																																					
松 森	松森と鶴が丘に分離する																																					
南光台東	八滝不動神社祭りに手作りみこしで参加																																					
南 光 台	広報紙を年6回発行する																																					
黒 松	子ども祭りを開催																																					
長命ヶ丘	ふるさと祭り・親子ハイキング・運動会を実施																																					
鶴が丘	集会場の草取り、ソフトボール大会、芋煮会、野球大会、バレーボール大会、花火大会、七夕まつり、座談会、肝試し、キャンプファイヤー、スケート大会等を実施																																					

	出 来 事	内 容
昭和59年4月27日 校区数 19 校区 児童数 14,796 人 予算額 3,670,000 円	第13回 泉市子ども会育成会総会	※会長あいさつのなかで、「行事事務が多くなった」と、心配をしている旨の話がでる ※第3回理事会を一力寿司でおこなった
昭和60年4月25日 校区数 21 校区 児童数 14,994 人 予算額 3,600,000 円	第14回 泉市子ども会育成会総会 ・仙台市管内青少年のつどい開催 ・ふるさと祭りが雨のため中止	・寺岡・南中山校区結成 ・7月28日、仙台市周辺都市をふくめた青少年のつどいが泉で開催された (参加人数 500 名)
昭和61年4月24日 校区数 22 校区 児童数 14,936 人 予算額 3,610,000 円	第15回 泉市子ども会育成会総会 ・ふるさと祭りが再開される ・指導者研修会(参加者 117 人)	・虹の丘校区結成 ・会場が泉市役所前へ移された ・会場が泉市役所東庁舎大会議室、この年からいろいろな研修・会議の会場が市役所になる ※「子ども会育成会」ってなんだろうか？ また、「育成会」って何をやるんだろうなどの声がだされ始める ※長命ヶ丘の取り組み内容抜粋 育成会活動費を役員が戸戸訪問し、育成会の主旨を説明して歩き集金した 結果は、全戸とまではいかなかったが、約8割の賛同を得ることができた
昭和62年4月28日 校区数 22 校区 児童数 14,812 人 予算額 3,800,000 円	第16回 泉市子ども会育成会総会	・無気力、無責任、無関心の子どもが多くなった 日常生活の中から子育てを地域でやらなければならない (高橋忠治会長あいさつから) ・広報紙に各校区子ども会写真を載せている
昭和63年3月1日	仙台市と泉市が合併	泉市役所が泉総合支所となる
昭和63年4月25日 校区数 24 校区 児童数 14,968 人 予算額 3,936,000 円	第17回 泉市子ども会育成会総会 ・事務局が変更となる	・館・住吉台校区結成 ・事務局 仙台市教育局泉教育事務所社会教育課となる ・広報紙に各校区の手作りみこしの写真を載せる
平成元年4月27日 校区数 25 校区 児童数 15,337 人 予算額 4,180,000 円	第18回 泉地区子ども会育成会総会 ・規約改正を行う ・ふるさと祭りで行う ・ふるさと祭りでとうろう流しを行う	・松陵校区結成 ・仙台市泉区子ども会育成会に名称変更 ・ふるさと祭りの場所が七北田側の河川敷に移され、この年初めてとうろう流しを行う (広報紙にその様子の写真が載っている)

	出 来 事	内 容
平成2年4月20日 校区数 25 校区 児童数 15,446 人 予算額 5,047,000 円	第19回 泉区子ども会育成会総会 ・規約改正を行う	・専門指導者部会は、県子連の専門指導者研修会の受講終了者をもって構成することになる
平成3年4月23日 校区数 27 校区 児童数 15,504 人 予算額 4,757,000 円	第20回 泉区子ども会育成会総会 ・規約改正を行う ・創立20周年記念式典・祝賀会を行う ・広報紙 20周年記念特集号を発行	・高森東・松陵西校区結成 ・会長、副会長、監事：理事会の推薦を得かつ、総会の承認を得て選出する ・常任理事は別に定める専門部の部長がこの任にあたる ・顧問をおくことができる ・20周年記念式典・祝賀会をイズミティ21展示室で行う（出席者470名） ・特集の中には、子ども会育成会Q&Aを作成し発行した
平成4年4月23日 校区数 28 校区 児童数 15,046 人 予算額 4,788,000 円	第21回 泉区子ども会育成会総会 ・地下鉄開業記念聖水リレーに参加 ・泉ヶ岳雪祭りに参加 ・育成会役員マニュアルを作成	・北中山校区結成 ・聖水リレーの様子 1. 泉ヶ岳水神から聖水を取水する 2. 福岡小学校で出発式を行う 3. 白バイ・パトカーの先導で聖水のリレー 4. 泉中央の第3の泉に児童代表が水神の水を注いだ ・器：八乙女小学校陶芸愛好会で作成したものを使用する ・リレー順：福岡・根白石・実沢・野村・寺岡・高森・高森東・将監西・将監中央・将監・七北田の各小学校の児童によりリレーを行う ・「泉ヶ岳創造と喜びのハーモニー」という名称の雪祭りに参加（200名） ・「子ども会育成会ってなに？ 何をするのに？」に答えて、この年役員向けマニュアルを作成（1,300部）
平成5年4月22日 校区数 28 校区 児童数 15,116 人 予算額 5,095,000 円	第22回 泉区子ども会育成会総会 ・泉区子ども会育成会会長に島貫繁治氏 ・泉区民ふるさと祭りの場所の変更 ・広報紙にK,Y,T（危険予知トレーニング）を載せ、安全への認識を深めさせた	・高橋忠治会長から島貫繁治会長に替わる ・ふるさと祭りの場所が七北田川河川敷から七北田公園内に変わる ・この年公園の池にとろうろを浮かべる ・鯉のつかみどり、南北対抗綱引き大会に参加する ・大とろうろ28個を作成し飾る ・こどもたちにナイフの使い方を知ってもらうため、竹細工を行う
平成6年4月21日 校区数 28 校区 児童数 14,894 人 予算額 4,794,000 円	第23回 泉区子ども会育成会総会 ・育成会の指導者研修を1泊で実施 ・泉区ふるさとまつり雨のため中止となる	・青年の家にて1泊で指導者研修会を実施 レクリエーションダンス・スタンプ・応急手当方法の実践・蘇生訓練の実施（参加者80名）

	出 来 事	内 容
平成7年4月24日 校区数 29 校区 児童数 14,603 人 予算額 4,670,000 円	第24回 泉区子ども会育成会総会 ・育成会指導者研修会の実施 ・規約改正を行う	・桂校区結成 ・指導者研修会を七北田公園体育館で実施 K,Y,T・応急手当方法の実践・救急処置方法の訓練 (参加者130名) ・組織構成内容を団体・機関で構成から、子ども会育成会で構成するに変更 ・専門委員は常任委員会の推薦とするに変更
平成8年4月24日 校区数 29 校区 児童数 14,286 人 予算額 4,610,000 円	第25回 泉区子ども会育成会総会 ・育成会指導者研修会の実施	・上谷刈キャンプ場でサバイバル料理に挑戦する (参加者130名)
平成9年4月30日 校区数 29 校区 児童数 14,060 人 予算額 4,580,000 円	第26回 泉区子ども会育成会総会 ・規約改正を行う	・代議委員を各校区2名とした ※29校区目の桂校区が初めて「子ども祭り」を行った ※松陵西校区では「5等になりたい」の映画を上映した (参加者250名) ※将監校区では、田植え、稲刈り、餅つきと1年の収穫体験を実施 (参加者270名) ※高森校区では「20周年記念夏祭り」が盛大に行われた
平成10年4月14日 校区数 29 校区 児童数 13,725 人 予算額 4,700,000 円	第27回 泉区子ども会育成会総会	・「育成会ってなに？何をする？」のかが議題となる ・向陽台と南光台校区合同のインリーダー研修が行われた (青年の家) <div style="border: 1px solid blue; border-radius: 15px; padding: 5px; display: inline-block; margin: 10px 0;"> 中央児童館の使用が抽選となる </div>  ※指導者研修会が「泉市体育館」を利用し、多く実施されてきたが、「根白石市民センター」を利用するようになる ※寺岡校区の手作りみこしが2台だったのが、12地区の子ども会になったことから、3台に増えた ※南中山校区では、夏祭りに90個の手作りとうろうを飾った
平成11年4月14日 校区数 29 校区 児童数 13,339 人 予算額 4,740,000 円	第28回 泉区子ども会育成会総会 ・泉区子ども会育成会会長に 高橋則雄氏	・島貫繁治会長から高橋則雄会長に替わる ・ふるさと祭りで始めて吊りとうろうを作成する
平成12年4月24日 校区数 29 校区 児童数 13,081 人 予算額 4,770,000 円	第29回 泉区子ども会育成会総会 ・泉区子ども会育成会会長に 小野和香氏 ・泉ヶ岳コスモスフェスティバルに参加	・高橋則雄会長から小野和香会長に替わる ・コスモスマつりとして、各団体がコスモスの苗を育て、泉ヶ岳に植える ※広報紙の大きさが変わった(A4サイズとなり、ページ数が減った)

	出来事	内容
平成13年4月25日 校区数 29 校区 児童数 12,901 人 予算額 4,780,000 円	第30回 泉区子ども会育成会総会 ・育成会指導者研修会で、グループ討議を行う ・校区交流会を行う ・広報紙の配布方法が変わる	・校区間の情報交換のため、校区交流会を地域ごと4つのグループに分けて開催 ・広報紙「いずみ」の配布方法を全戸配布から、小中学校実家庭配布、町内会回覧方式に変わる また、昨年度の2倍のページ数（8ページ）になった
平成14年4月25日 校区数 29 校区 児童数 13,095 人 予算額 3,710,000 円	第31回 泉区子ども会育成会総会 ・泉区子ども会育成会30周年記念講演を行う (根石市民センター)	・指導者研修会(春)のプログラムを大幅に変更、より校区のニーズに合った内容のものを模索 ◇講演会「学校週5日制と地域とのかかわり」 ◇K.Y.T(危険予知トレーニング) ◇分科会 ◇レクレーション(ダンス、ゲーム等)



30周年記念講演会(谷氏・新田氏)

- ・広報部で単位子ども会にアンケート調査を実施し、情報誌「HOW TO 校区」発刊
- 【30周年記念事業】**
- ・講演会テーマ
「子ども育ては大人育て～子どもは学校で育てるんですか？」
講師 谷徳行氏, 新田新一郎氏
- ・広報紙「いずみ」30周年記念号発刊、全16ページとし、全校区の活動紹介、また、業者には印刷だけを委託し、紙面は全て広報部員の手作りとした
- ・「泉区子ども会育成会30周年の記録集」を作成



指導者研修会 分科会



ジュニア-ダ-追い出しコンパ



ジュニア-ダ-追い出しコンパ

	出 来 事	内 容
平成15年4月24日 校区数 29 校区 児童数 12,956 人 予算額 3,474,000 円	第32回 泉区子ども育成会総会 ・泉区子ども育成会会長に 塩川裕子氏	・『仙台市子ども会連合会設立準備会』発足 ・小野和香会長から塩川裕子会長に替わる
平成16年4月27日 校区数 30 校区 児童数 12,839 人 予算額 3,412,000 円	第33回 泉区子ども育成会総会 ・専門指導者研修会 (ブレインストーミング&KJ法)	・市名坂校区結成 ・指導者研修会が『育成者研修会』に名称変更 対象者も地域の大人へと替わった ・3月に基本編として育成会役員のため『新役員勉強会』を 開催
平成17年4月12日 校区数 30 校区 児童数 12,687 人 予算額 3,283,000 円	第34回 泉区子ども育成会総会 ・宮城県子ども会育成連合会 退会 ・仙台市子ども会連合会結成 ・規約改正を行う	・平成17年4月, 市子連, 宮城子連, 泉子連による新組織 『仙台市子ども会連合会』発足 ・育成者研修会を, 5月は実践編, 10月は応用編, 3月は基 本編として行う ・平成16・17年度2カ年で『子ども会育成会役員必携マ ニュアル』を発行 ・『子ども会活動・おたすけ情報』・『子ども会安全会の手引 き泉区版』保存版を作成
平成18年4月28日 校区数 30 校区 児童数 12,602 人 予算額 3,195,000 円	第35回 泉区子ども育成会総会 ・泉ヶ岳をなめんなよキャンプ (8月) ・専門指導員研修会 (バルーンアート) ・泉ヶ岳オータムフェスティ バルに参加	・宮城県泉ヶ岳自然の家にて開催 ・泉ヶ岳スキー場にて『第2回育成者研修会』を行う
平成19年4月27日 校区数 29 校区 児童数 11,756 人 予算額 2,361,000 円	第36回 泉区子ども育成会総会 ・向陽台校区子ども会育成会 退会 ・泉ヶ岳をなめんなよキャンプ (8月) ・泉ヶ岳悠・優フェスティバル に参加	・仙子連に単独入会 ・宮城県泉ヶ岳自然の家にて, シニアリーダー連絡協議会と 共催し『泉ヶ岳をなめんなよキャンプ』を開催 ・泉ヶ岳スキー場にて手作りの遊びのコーナーを出店
平成20年4月25日 校区数 29 校区 児童数 11,725 人 予算額 2,138,000 円	第37回 泉区子ども育成会総会 ・ジュニアリーダー育成支援体 制の変更 ・泉っ子キャンプIN松島 (2泊3日にて8月開催) ・ホームページ開設	・平成20年度は準備期間とし, 平成21年度から各地域の 市民センターへ完全移行 ・松島自然の家にて開催(宮城県泉ヶ岳自然の家閉所に寄り)

	出 来 事	内 容
平成21年4月24日 校区数 29 校区 児童数 11,504 人 予算額 2,118,000 円	第38回 泉区子ども会育成会総会 ・ 泉区子ども会育成会会長に千葉貴和子氏 ・ 泉っ子キャンプIN泉ヶ岳（2泊3日にて8月開催） ・ 規約改正を行う	・ 仙子連に宮城子連が入会 ・ 塩川裕子会長から千葉貴和子会長に替わる ・ 泉ヶ岳自然塾キャンプ村にて行う
平成22年4月23日 校区数 29 校区 児童数 11,485 人 予算額 2,202,388 円	第39回 泉区子ども会育成会総会 ・ 仙台市子ども会連合会育成者研修会・校区交流会同時開催 ・ 泉っ子キャンプ（1日にて10月開催）	・ 仙台市青年文化センターにて講演会開催。その後、旭ヶ丘市民センターに会場を移して校区交流会を開催 ・ 仙台市泉岳少年自然の家にて目隠し列車やコップリレーなどのゲーム、野外炊飯を行う
平成23年4月22日 校区数 29 校区 児童数 11,126 人 予算額 1,906,260 円	第40回 泉区子ども会育成会総会 ・ 専門指導委員研修会 ・ 泉っ子キャンプ（1泊2日にて1月開催） ・ 指定都市子ども会育成研究協議会 ・ シニアリーダー連絡協議会活動休止 ・ 規約改正を行う	・ ゲーム指導や牛乳パックのクラフト作りを行う ・ 仙台市泉岳少年自然の家にて歩くスキーやスノーシュー体験、スノーランタン作りを行う
平成24年4月24日 校区数 29 校区 児童数 11,062 人 予算額 2,106,903 円	第41回 泉区子ども会育成会総会 ・ 泉区子ども会育成会40周年記念講演を行う（根白石市民センター） ・ 専門指導委員研修会 ・ 泉っ子キャンプ（1泊2日にて1月開催）	・ 嶺岸篤氏を講師に迎え開催、113名が参加 ・ 今年度は2回開催。KYT紙芝居（泉区版）を作成 ・ 仙台市泉岳少年自然の家にて行う
		

表彰者一覧

年度	泉区子ども会育成会表彰		宮城県子ども会育成連合会表彰	
	個人	団体	個人	団体
S49				黒松連合子ども育成会
S50				冠川子ども会
S51				
S52			千葉英郎	
S53			山本右子	北泉子ども会
S54				南光台14地区子ども会 根白石ジュニアリーダー
S55			高橋忠治 若生勲	
S56			島貫繁治 高橋忠治 (全国表彰) 山本右子 (東北表彰)	向陽台第2地区子ども会
S57	鴫田勇雄 蜂屋いな 吉田和歌子 庄司さつ子 斎藤庄八	西田中子ども会 (根白石) 泉ヶ丘1丁目子ども会	斎藤庄八 島貫繁治 (東北表彰)	黒松堤地区子ども会 向陽台ジュニアリーダー
S58	馬場新四郎 (野村) 山田尚良 (将監中央) 篠田勝太郎 (向陽台) 白沢留吉 (南光台東) 内海恂子 (南光台) 竹内礼子 (南光台) 郷湖健一 (松森)	南光台7地区子ども会 黒松B地区子ども会	篠田勝太郎 内海恂子 庄司さつ子 吉田和歌子 蜂屋いな 鴫田勇雄	将監校区 南光台7地区子ども会
S59	千葉宏志 (将監) 佐藤きよ子 (南光台) 高橋節子 (南光台) 小野恵子 (八乙女)	鹿島地区子ども会 (松森) 南光台16地区子ども会 黒松いずみ会 (黒松)	馬場新四郎 (野村)	南光台校区 鹿島地区子ども会 (松森)
S60	菊地シマ子 (南光台) 斎藤きみ子 (南光台)	黒松A地区子ども会 青空子ども会 (向陽台)	竹内礼子 (南光台)	根白石校区 青空子ども会 (向陽台)
S61	河村正雄 (向陽台) 熊谷和友 (根白石) 川名エイ子 (八乙女) 遠藤勝代 (鶴が丘) 石川清太郎 (野村) 若生源吉 (野村)	西田中子ども会 (根白石)	郷湖健一 鞠古晶子 (南光台公民館次長) 島貫繁治 (全国表彰)	向陽台校区 泉ヶ丘1丁目大沢子ども会 黒松ファミリー (JLサークル)
S62	間中次郎 (長命ヶ丘小学校)	八乙女12地区子ども会 福岡校区	小野恵子 (八乙女)	野村校区 南光台16地区子ども会 パズル (鶴が丘JLサークル)
S63	鈴木敏郎 (向陽台) 小野和香 (鶴が丘) 相沢良夫 (根白石)	向陽台3丁目子ども会 北星地区子ども会 (根白石) 南光台20地区子ども会	菊地シマ子 (南光台)	実沢校区 西中田子ども会 (根白石) 南光台アドバルーン (JLサークル)
H1	赤間 勉 (七北田) 福本勝造 (将監西) 亀井静枝 (泉ヶ丘) 針生勝郎 (根白石)	中町地区子ども会 (根白石)	熊谷和友 (根白石)	福岡校区 中町地区子ども会 (根白石) 長命ヶ丘菓子つぷ (JLサークル)
H2	熊谷わくり (根白石) 塩野芳江 (鶴が丘) 氏家清志 (長命ヶ丘)	朝日地区子ども会 (根白石) 南光台15地区子ども会	小野和香 (鶴が丘) 山本右子 (全国表彰)	北星地区子ども会 (根白石)
H3	鷺尾ミツ子 (七北田) 江口英男 (南光台) 石垣ミヤ (南光台) 鷺尾清 (根白石) 内藤道幸 (七北田)	南光台12地区子ども会 歩坂町子ども会 朴沢地区子ども会		

H4	馬場文子（野村） 吉田純一（長命ヶ丘） 塩川裕子（南光台） 伊藤充恭（八乙女） 神太郎（南中山） 高橋光晴（長命ヶ丘）	七北田校区 青葉地区子ども会（根白石） 下町地区子ども会（根白石） 長命ヶ丘1丁目地区子ども会 長命ヶ丘2丁目地区子ども会 長命ヶ丘3丁目東地区子ども会 長命ヶ丘3丁目西地区子ども会 長命ヶ丘4丁目東地区子ども会 長命ヶ丘4丁目西地区子ども会 長命ヶ丘5丁目地区子ども会 長命ヶ丘6丁目地区子ども会	鷺尾清（根白石）	八乙女小校区子ども会 泉ヶ丘1丁目地区子ども会
H5	嶋きえ（八乙女） 村山幸恵（南光台） 久保内初子（鶴が丘） 赤間柳蔵（南光台東） 高橋義克（根白石） 斎藤眞（松森）	南光台東校区 将監西校区 松森校区 鶴が丘校区 八乙女4地区子ども会 松森台地区子ども会（鶴が丘）	塩川裕子（南光台）	
H6	庄司忠義（根白石） 仙臺祥子（南光台） 主藤則子（鶴が丘） 高橋俊子（八乙女） 一関富志子（八乙女）	南光台第2地区子ども会 友愛子ども会（七北田） 鶴が丘4丁目東地区子ども会	伊藤充恭（八乙女）	南光台東校区
H7	佐藤実（根白石） 菅澤やす子（福岡） 八島みどり（南光台） 佐藤千恵（鶴が丘） 針生智子（八乙女）	鶴が丘3丁目東地区子ども会 天神沢子ども会（七北田）		
H8	高橋長也（根白石） 白石辰恵（鶴が丘） 平泉三重子（南光台） 庄司一美（住吉台） 柳橋邦彦（泉ヶ丘）	鶴が丘1丁目1地区子ども会 8地区チャンピオン子ども会（八乙女）	赤間柳蔵（南光台東）	
H9	高橋健一（根白石） 庄司貞夫（根白石） 鈴木宣義（長命ヶ丘）	鶴が丘1丁目2地区子ども会 8地区どんぐり子ども会（八乙女）	塩川裕子（東北表彰）	
H10	渡邊静子（長命ヶ丘） 佐藤芳治（根白石）	長命ヶ丘東子ども会 鶴が丘1丁目3地区子ども会		
H11	亘理和子（鶴が丘） 佐々木功（根白石） 相沢近（根白石） 真田とく子（南光台） 安倍修（実沢）	鶴が丘1丁目4地区子ども会	神太郎（南中山） 庄司忠義（根白石）	鶴が丘校区 松森台地区
H12	佐藤みや子（鶴が丘） 高橋一也（根白石） 樋渡統雄（根白石） 杉山秀子（南光台）	鶴が丘1丁目5地区子ども会 南光台14地区子ども会 ビックダンボ子ども会（八乙女） なかよし子ども会（八乙女） 松陵1・5丁目子ども会 松陵南4丁目子ども会	小野和香（東北表彰）	鶴が丘4丁目東地区子ども会
H13	若生勝治（加茂） 大橋とみ子（加茂） 赤間俊治（虹の丘）	南光台18地区子ども会 鶴が丘1丁目6地区子ども会育成会 フレンズ子ども会（八乙女） 5地区わんぱく子ども会育成会（八乙女）		
H14	永野真（実沢） 朝倉かほる（南光台）	南光台17地区子ども会 鶴が丘1丁目7地区子ども会 どんぐり子ども会（八乙女） リーベスト八乙女子ども会（八乙女）		

H15	佐藤重子（北中山） 平山弘代（松森） 大塚ひとみ（南光台） 千葉貴和子（松陵）	松陵校区 高森東校区 9地区大吉子ども会（八乙女） 10地区GOGO子ども会（八乙女） 松陵4丁目北子ども会		
H16	佐藤純子（南光台） 佐藤斌夫（黒松）	上谷刈南子ども会C地区（加茂） 加茂1丁目子ども会 加茂4丁目5丁目子ども会 第1町内会5地区子ども会（南光台） フレンズ子ども会（八乙女） 南光台アドバルーン（JLサークル） 長命ヶ丘巣子っぶ（JLサークル）	※平成17年3月仙台市子ども会連合会設立のため 宮城県子ども会育成連合会から脱退	
H17	中井裕子（南光台） 細谷絵美（泉ヶ丘）	加茂2丁目子ども会 加茂3丁目子ども会	塩川裕子（全国表彰） 赤間俊治 （全国40周年記念表彰）	
H18	早坂俊彰（実沢） 仁部富枝（松陵） 濱野友則（虹の丘） 荒川陽子（南光台東）	上谷刈北子ども会（加茂） 加茂自治会子ども会	小野和香（全国表彰）	
H19	亀沢徳子（八乙女） 佐藤雅子（八乙女） 砂金よしえ（松陵） 佐藤洋子（松陵） 寺山春子（松陵）	みちのく松陵（JLサークル）		
H20	遠藤由美子（加茂） 高橋美喜子（黒松） 桜庭順子（松陵）		※平成21年4月仙台市子ども会連合会表彰規定制定 仙台市子ども会連合会表彰	
H21	佐藤重子（北中山） 萱場宏明（加茂） 佐藤幸枝（加茂） 阿部聡子（松陵西） 増子敬子（南光台東）		内海恂子（南光台） 赤間俊治（虹の丘） 平山弘代（鶴が丘） 千葉貴和子（松陵）	仙台市泉区子ども会育成会 黒松校区 仙台市泉区子ども会育成会 （全国表彰）
H22	今野久美子（黒松） 松元洋子（住吉台） 安部光一（実沢） 高橋学（実沢）	泉区シニアリーダー連絡協議会	濱野友則（虹の丘） 朝倉かほる（南光台） 赤間俊治 （指定都市表彰）	泉区シニアリーダー連絡協議会 七北田校区
H23	若生修二（実沢） 赤間千絵（実沢） 野原恵美子（南光台） 川島浩美（黒松） 小池美江（黒松） 高嶋多恵子（松陵） 伊藤早苗（虹の丘）	将監くれよん（JLサークル）	佐藤幸枝（加茂） 平山弘代 （指定都市表彰）	泉ヶ丘校区 将監くれよん 七北田JLサークルありす 泉区シニアリーダー連絡協議会 （東北表彰） 七北田JLサークルありす （東北表彰） 黒松校区（指定都市表彰） 将監くれよん（指定都市表彰）
H24	早坂俊彰（実沢） 菊池美生子（黒松）	高森流星サークル（JLサークル）	中井裕子（南光台） 荒川陽子（南光台東） 千葉貴和子（東北表彰）	黒松校区（全国表彰）



編集後記



泉区子ども会育成会は、昭和46年に創設されて以来、地域で活動する育成会の情報交換や交流を図り、子ども会活動を推進していくことを目指して活動を展開してきました。

今回、40周年の記念誌を編集するにあたり、これまでの取り組みを振り返りそのあゆみを知るとともに、育成者として活動して来られた諸先輩方の献身的な努力と熱意にふれることができました。設立から40年が経過し、当初子どもだった方が育成者となり親だった方が地域の育成者となって、承継されてきた子ども会育成会活動の素晴らしさを改めて実感しました。

子ども会育成会は、その時代時代に応じて変化しながら、子どもたちが「遊び」を通して様々な学びを体験する場「子ども会」を大切に見守ってきました。少子化と言われる昨今においても、地域で育む「子ども会」の存在は重要なものとなっております。子どもたちが企画し、活動し、準備する。それを大人が一生懸命に手伝う。子どもたちが充実した子ども会活動を行うためには、地域の皆様が育成者となって、子どもたちを見守っていく取り組みが必要不可欠です。子ども会が楽しい遊び集団として活動できるように支援し、これからも時代背景を考慮に入れながら楽しく活動する「子ども会育成会」を目指して行きたいと思います。

本誌の刊行あたって資料提供やご寄稿頂いた方々に感謝致しますとともに、多大なご協力を賜った関係各団体に厚く御礼申し上げます。今後とも本会の益々の発展のために、ご支援、ご協力を賜りますよう、心からお願い申し上げます。

平成25年2月28日 設立40周年記録集 編集委員会





泉っ子キャンプ☆2012

平成25年1月19日～20日 泉岳少年自然の家